

# 子供の農山漁村体験の充実

## 現状

- 農山漁村体験には小学生32万人、中学生37万人、高校生15万人が取り組んでいると推計されるが、都市部の児童生徒に将来のUIJターンの基礎を形成するとともに、地方の児童生徒に足元の地方の魅力の再発見を促すことが期待できるため、一層の推進が必要である。
- 生きる力の醸成等の教育効果を得るためには、おおむね1週間程度の体験が望ましいとされるが、現状ではほとんどが1泊2日または2泊3日の短期間の体験にとどまっている。

## 取組状況

(総務省、文科省、農水省、環境省と連携)

- 2024年度に、**取組人数の倍増**を目指し、**小学生65万人、中学生75万人、高校生30万人**が農山漁村体験を行うことを目標として設定。
- 長期（4泊5日等）の取組及び関連して一体として取り組む地方創生に資する活動（※）を地方創生推進交付金で支援。  
※将来の移住及び定住の促進、地域社会を担う人材の育成や確保等を目的とした活動
- 令和元年度より、これまで小学校の取組のみが対象となっていた地方財政措置について、中学校の取組等まで支援対象を拡大。
- 新たに子供農山漁村体験に取り組もうとする学校等が必要とする受入側の情報やサポート可能な教職員OB・OG等の情報を盛り込んだコーディネートシステムを公開。
- 農山漁村体験の教育効果について、子供の保護者をはじめとする関係者の理解が得られるよう、PR動画を公開。



東京都武蔵野市の取組の様子



北海道長沼町での受入れの様子